

文化高知

2002年1月 NO.105



142×142

「面」 和田大康

〈もくじ〉

「かるぼーと」船出 文化プラザ四月オープン.....	橋井昭六	2
土佐琵琶のおはなし	黒田月水	3
2002年高知を駆ける、馬踏飛燕①	長山昌広	4～5
「それから」以後の世界	篠原義彦	6～7
地ねずみのEメールとシニフィアン.....	内川 和	8～9
ゆとりある住生活の実現	山下 隆	10～11
原宿表参道元氣祭 スーパーYOSAKOI.....	岡崎誠也	12
第九と私	川田弘人	13
風俗歳時記・風伯		14～15

(財) 高知市文化振興事業団

「かるぽーと」船出 文化プラザが四月オープン

橋井昭六

古代ローマにおいてはコロッセウム・円形闘技場があって、大衆が競技を注目した。古代ギリシャにも円形劇場が残されている。円形劇場は舞台と客席の仕切りを取り払い、参加者と会場の一体化を生み出すとされている。装置や仕掛けも円になると、まったく構造を変えてしまう。

現代のドームも同じ効果があるだろう。出演する者は八方から注目されてしまう。

円形は新しい融合の場だ。今年四月七日にオープンする高知市文化プラザ「かるぽーと」は、設計者の構想で円形で表現された。設計者は海へ乗り出す文化の帆船をイメージしたと言われるが、丸い、変わった建物が、今市民の目をみはらせている。高知市九反田に誕生。地下三階、地上十一階、総事業費百九十億円。市が総力を傾けた市民のための新文

化施設である。これを高知市文化振興事業団が総合的に管理、運営する。ここへ入る主な施設は四つ。文化ホール（客席数千八十五）、市民ギャラリー、横山隆一記念まんが館、中央公民館である。すでに開館記念四十四事業が準備されて、市民の皆さんの期待を集めている。

横山隆一さんがこの完成を待たずに十一月八日に亡くなられたのは残念でならない。いつも高知高知とふるさとのことを言い続けていた横山さんに、なんとか記念館のオープンに出ていただきたかったのに。しかし、ここは横山さんの作品やコレクションを展示するだけでなく、まさんがの日本の基地として発展していくよう盛り立てていくのである。そして横山さんに喜んでいただきたい。日本の代表的なまんが家たちが、横山さんへの弔辞の中で、一様に高知

の記念館への期待を語っていた。したがって責任が重い。ホールも機能的に精巧を極めていて、いろんな上演が受け入れられる。座席数は多くないが、これに適した演目公演が期待される。大ホールをつくっても、その維持に困っている例が多い中で、こういう規模の効率のよい生かし方を考えていくべきである。

ギャラリーも市民から長い間待望されていた。華道まで含めたさまざまな利用が考えられる。公民館も市民の集いやすく、また見晴らしのよい上部につくられている。

さて、しかし建物はできても、どう使いこなすか。これが問題だ。絵に描いたように順調にはいくまい。スタッフも、文化振興事業団、市教育委員会、公民館などのメンバーの混合チームになる上に当初は、皆未経験だから大変であろう。使いながら要領をつかんでいくしかない。



ギャラリー：半屋外の約30メートルの吹き抜け空間



黒田月水

土佐琵琶のおはなし

「土佐琵琶ってあったんですか。歴史はどのくらいになりますか？」とよく聞かれます。正直、その間にはいつも戸惑いを隠しきれず、「元々土佐琵琶という名前の楽器はなくてですね……」というふうについつい言葉を濁すような答え方をしておりました。

高知に琵琶教室を開いてかれこれ五年になります。それと同時に、琵琶を勧めて下さった彫刻家の流政之先生から、『土佐琵琶』を名乗るようにとの提案があり、「高知に帰り琵琶を広めなさい」とのお達しがありました。

『土佐琵琶』。なんていい響きだろう。なんともわくわくする響きではありませんか。多少、琵琶楽協会のことや琵琶の諸先輩方のお顔が脳裏をかすめました。『土佐琵琶』の響きにすっかり飛んでしまいました。元々感覚人間の私は、この（ワクワク）にたいへん弱く、（ワクワク）

すれば、自分の中では正解。しかも不思議なことに、これが外れない。と、それはさて置き、冒頭の「戸惑い」とは何なのか……。私の持つている琵琶は現代に言われる薩摩琵琶です。それを「土佐琵琶」と言い換えただけに過ぎないのです。今までの琵琶と「土佐琵琶」との区別を何でするか……？ 名乗る以前に大変な壁にぶつかってしまいました。

まず、「土佐」だけに、土佐先人の物語を作りました。「坂本龍馬」に「中岡慎太郎」、「長宗我部」etc……。しかしこれだけでは満足

のゆくものではありません。次に琵琶の改造計画。絃を増やそうか減らそうか、それとも、琵琶の形を正倉院の琵琶に変えてしまおうか……。果てしなく考えれば考えるほど幾夜も眠れず、逃げ出したくなり、そんな状況が二年ほど続き、ある時歴史書を読み返していて

ふと、薩摩琵琶だつて人が名付けた物なんだと気がついた時、すーっと気が楽になりました。土佐琵琶で良いんだと。自分の生まれた、誇れる土佐の名をもらった新しい琵琶なんだと。

一つふっ切れると、不思議なことに何かが回り始めました。高知滞在の折、あるところで「月水さんは土佐清水の生まれやったら、唐人駄場を知っちゃうか」と聞かれ、「トウジンダバ？ 知りません」と答えると、資料をくださいました。

足摺半島の途中に、古代遺跡と考えられる巨石群のあることを恥ずかしながらこの時初めて知りました。資料を読み進むうち、ここで琵琶を弾きたいという衝動が生まれ、例の（ワクワク）が胸を駆け抜けました。さっそく数人の方にお話を伺い相談を持ちかけると、色々な方たちが様々な思いで唐人駄場を大切になさっていることが分かり、これは迂闊なことではない、じっくりと時間をかけよう、と思いが定まる。

では、あの石の上で何をやれば良いのか。まさか平家物語でもないだろうし、土佐琵琶といえども龍馬でもジョン万次郎でもない。ある日、ふと古代の遺跡なら古代語はどうだろうと思ひ立ち、誰か古

四つの施設の複合体という、いいようで難儀な面もあることは事実である。ここは市民の方々と一緒に、知恵を出し合いながら、高知の文化新空間を楽しく動かし、歩いてほしいものだ。近隣の方々のご協力も得て、そして本当に丸みのある円形文化を膨らませていってもらいたい。そしてもう一つ。「かるぽーと」

ができることよって、高知市中心部の動きがはりまや橋から東へ拡がるのが期待される。人の流れ、街の機能が、面的に東へ拡大し、街として本当に活力ある空間が生まれてくるのではないかと考える。
（はしいしよろろく／財高知市文）
（文化振興事業団理事長）

代語の解る方はいないかと聞いて回るうち、高松在住のMさんに出会うことができた。彼女から聞いた古代語をさっそく琵琶風に作り、謡ってみる。内容は、古代の巫女の太陽神に対しての感謝の祝詞で、古代語だけに言葉はあまり理解できないが、聞いた人はエネルギーを感じるらしい（謡っている本人は、それだけで必死なので、その辺は良く判っていないところが少し悔しいが）。次は石（意思）を動かす言葉、そして、人が生まれる素晴らしさを称えた言葉等々……。それぞれに節を付け、琵琶の音を付けました。

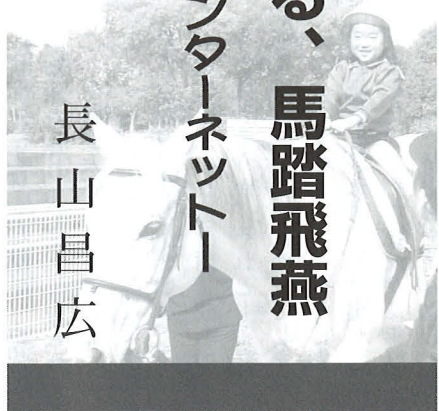
古代語に関わっているうちに歴史の壮大さを感じ、私たちはその中の一滴なんだとそう思えた時、たとえ私の代で土佐琵琶を確立できなくても、百年後に『土佐琵琶』というものが残るように、やれることを今一杯やれば良いんだと思ひました。しかも古代語で琵琶をやっているのは土佐琵琶しかないんだという自負もあり、今は後ろめたさもなく、自然のまま、あるがままに土佐琵琶に精進しております。

今年（時期はまだ未定ですが）、唐人駄場で古代語を披露します。（くるだけっすい／土佐琵琶奏者）

高知を駆ける、馬踏飛燕

「馬と園児とインターネット」

長山昌広



新年、飛躍の年に

馬踏飛燕(ばとうひえん、飛ぶつばめを踏んで走る馬、の意)をご存じでしょうか。中国・武威市の遺跡から出てきた、この見るからに勢いのある馬の像は、レプリカがたくさん造られ、また大きな像が町中に建てられたりして、武威市の「躍進の象徴」となっています。二〇〇二年の高知も、ぜひ馬踏飛燕の勢いにあやかりたいものです。

世界中で、人間の生活とともにあり、縁起のいい動物とされている馬が、我が国では、動物園に行ってもシマウマしかおらず、いまや実物など見たことのない、珍獣、奇獣になってしまいました。かつて、高知県下の農家でありふれた光景として見

られた、のんびり「うまや」にたたく馬の姿は、もうありません。

馬とのふれあい

その馬に会いに、高知市内ばかりでなく、郡部からも、保育園、幼稚園の園児が、高知競馬場によつて来ます。昭和六十年に今の長浜に新競馬場がオープンしてから、たくさんの子供たちが遠足来場に来てくれました。この際、非開催日のため、「競馬場に来て、馬がいないの」ということでしたので、できる限り、園児の前に誘導馬を引っ張り出してきたわけです。

誘導馬は、競馬の開催日、出場する競走馬を先導して入場行進をします。その誘導馬のマキシムダンディくんが出てきますと、それだけで、

子供たちは大騒ぎ。私が、「馬の鼻先って、触ると馬はごきげんなんだよ」って言って、一人ずつ、ビロード状の馬の鼻先(実は上唇部分なんです)に触ってもらいます。この時の子供たちの目の輝きは、忘れることができません。

また、来場の予約の際、「ニンジンやリンゴをスティック状に切ったものを持ってきて馬にやってもいいですよ」と説明しています。それらを持ってきた子供たちは順番に、おっかなびっくり馬に餌を与え、馬がニンジンが大好きだということをお話、ほんとうだったことを知ります。その後、多くの子供たちや、親子遠足のお母さん、お父さん、また先生たちにも馬の上に乗ってもらいます。乗ったまま少し馬を歩かせたりもします。ほとんどの人が、馬に乗るのは初めてです。

高知にもある馬の文化

かつて馬はほんとうに県下のいたる所に、当たり前のようについて、文字通り衣食を共にする仲でした。一つの証拠に、馬路村、馬荷(大方町)、馬瀬(大豊町)、馬ノ上(芸西村)、桜馬場(高知市)など、今も、馬に



「馬踏飛燕」の像 持っているのは、松本陽子乗馬インストラクター

たわけです。私は、馬は典型的な文化の象徴だと思っています。高知競馬は、その馬文化の集大成でした。農家が馬を持ち寄り競走させた草競馬がルーツです。昨年三月、NHKの高知県内のニュースで、高知市文化振興事業団の主催する「第十七回写真コンテスト・高知を撮る」の作品展のようが報道され、仁淀村の競馬写真(当日のコメント文に「仁淀村星ヶ窪の最後の競馬になりました」と書かれていました。私が競馬場に勤めはじめたころ、同村内の別の場所にはまだ競走馬の休養牧場が残っていて、馬場がありました)が映っていたものですから、その日のうちに写真展を見に駆けつけた次第です。

中井秀夫氏のこの作品は、三枚の組写真で、タイトルも「競馬」。そのうち一枚の縮小版が文化高知二〇〇一年十一月No.104の十四ページに掲載されたときのコメント文に、「仁淀村で行われた最後の競馬。年寄りから子供まで、皆が楽しみにしている行事のひとつだった」とあります。私は、この短いコメントに、競馬の本質が凝縮されていると思います。ほかの一枚には、神主さんが写っています。

高知競馬場では、現在でも毎年欠かさず神主を呼び、関係者の前で安全を祈願し、馬場のお祓を行います。まさに、競馬のルーツがここに写されています。星ヶ窪の草競馬は、かつて西日本一のにぎわいと言われた

とか。高知で隆盛を誇った人々の催し、祭事が、いくつ消え去ったことでしょう。この作品の前に立つとき、仁淀村の競馬を見たことのない私でさえ、万感の思いがこみ上げ、感動を覚えずにはいられません。作品に貼られた「特選」の札は、まったく当然な評価でしょう。

インターネットで馬が走る

私は高知競馬の公式ホームページ Ryoma Derby (リョーマ・ダービー、「高知競馬」のキーワードで簡単に検索できます)のウェブブラウザをしていますが、最近自宅の接続プロバイダーを、ブロードバンドに変更しました。常時接続で電話料金を気にすることなく、サクサクと

馬に関する資料を探せます。それで調子に乗って、遠足に来てくれた園児の乗馬画像を、夜自宅に帰って、できる限りその日のうちにRyoma Derby上に掲載しています。

以前時間がかかってできなかったことが可能になり、子供たちの乗馬や馬とのふれあいの画像が、いつでも、誰でもが共有でき、高知競馬場は、高知、いえ四国随一の楽しい公園施設であるとアピールさせてもらっています。実際、「競馬公園」という名前にしたら、と言ってくれたお母さんがいらつしました。

競馬を深く知るある識者は、競馬は競馬というスポーツを見せるためにある、と言います。かつて高知の人々は、そのほとんどの人が、まさに走り、競い合う馬たちの美しさを見るために、競馬を催し、楽しみました。ちなみにRyoma Derbyでは、レース映像の動画を、通常速度用のチャンネルと、二五〇Kbpsというブロードバンド用のチャンネルの二つで見せており、無料で配信しています。新年、皆さんのご家庭で、高知の馬たちが懸命に走るのを見てやってください。馬踏飛燕の姿が、そこにあります。

(ながやまさひろ／高知県競馬組合競走馬診療所獣医師)



「競馬」 中井秀夫

「それから」以後の世界

篠原義彦

毎週火曜日は高知文化教室で源氏物語の講義をすることになっていて、八時半過ぎには自宅を出て高知市まで車で行くことにしている。おおむね一時間、バイパスの開通ゆえなのか、それとも少々ラッシュの時間を過ぎていくからなのか、比較的なめらかに流れていて手ごろなドライブである。

定刻まで多少の時間があるので、散歩がてら街の朝の活気を眺めてみたり、近くの書店をのぞいてみたりする。最近では店頭で置かれている新刊書もいささか回転が迅速で、二週間もすると顔触れが変わっていたりすることになる。

内容を吟味して自分の好みに合った時は購入することになっている「サ

ライ」という名の雑誌の左隣に「それから」という新顔の雑誌が積まれていた。新顔と書いたものの、まさしくニューフェイスなのか、それとも私個人にとってお初なのか、いざれにしても初対面であり、いささか面白い誌名である。

「サライ」の隣に居所を定めており、案の定、読者層も重なっているような感じがして、べらべらとペー지를めくっているうちに時間が来たので買わずに店を出た。

それにしても、「それから」とは、いささか気になる名である。思わせぶりな命名である。何かがあつて、「それから」か、はたまた、何かが終わつて、その後で「それから」なのかということになる。

漱石の作品の中に「それから」というのがある。「三四郎」「それから」「門」という代物である。晩秋のとある火曜日の朝、私が偶然目にした雑誌名が漱石の作品名と関係があるのか、それとも、他に何かのいわく因縁があつてのことなのか、わず

か二、三分の出会いゆえつまびらかではないが、いささか気にはなる「それから」である。

漱石が「それから」を発表したのは明治四十二年（一九〇九）のこと、漱石は「それから」の予告で

色々な意味に於てそれからである。「三四郎」には大学生の事を描いたが、此小説にはそれから先の事を書いたからそれからである。「三

四郎」の主人公はあの通り単純であるが、此主人公はそれから後の男であるから此点に於ても、それからである。此主人公は最後に、妙な運命に陥る。それからさき何うなるかは書いていない。此意味に於ても亦それからである。

と記している。営業精神旺盛にして絶妙なる筆づかいである。

『それから』は昭和六十年東映で映画化された。主人公の代助があの松田優作、そして、三千代が藤谷美和子である。一緒に観た妻は代助の高等遊民ぶりに素朴な反感を示していた。「なにイあの男、うじうじして」の為体である。

小説『それから』がどういふそれからなのか、具体的な問題は兎も角、

読点の下に続く「それから」もあれば、読点ならずして句点があつての「それから」もあるはずである。

私の住んでいる佐川町の役場から封書が届いた。少々厚みのある代物ゆえ、何事ならんと急いで開封してみると、利用のてびきとともに、「介護保険被保険者証」が入つていた。いよいよ御到来の感も一入である。

全国一律の命名ではあるが、介護保険被保険者証ではいささかソフトな味に欠ける。シンプルに考えれば、「それから保険証」ということになるのである。無論、いろいろな意味において、句点があつたうえで「それから」の人生もあろうし、読点の下に続く「それから」の日々もあつて、人それぞれである。

六十三歳の退官の日から数えて二年近くの時間が経過した。私自身にとつては、読点の下の「それから」ではなく、句点の下の「それから」である。四十一年間の仕事場からは離れて、新しい世界で新しい空気の中で生きてみたいというのがかねてからの願望である。

振り返ってみれば、今までの人生、その大半を教育という世界で過ごしたことになる。ネクタイを結び、袴

を着て、所詮は評価というネットを被せねばならぬ過去の呪縛をすべて忘れて、これからの日々は今までは違った世界で生きていきたいというのが私の願いである。

平成十二年三月三十一日の定年で、ゆつたりと句点を打ち、それからの世界が始まつた。私にとつては、「……、それから、…」にあらずして、「……。それから、…」である。句点の下の「それから」である。

ホノルル行きが端緒になった海外旅行も少しは慣れて面白さを味わっていた矢先に九月十一日の事件で、多少ブレイキはかかったが、体の自由がある間に老妻とともにいろいろな国々を旅してみたいと思う。ラテンの世界の明るさや朗らかな息遣いは感動的であり、四書五経の世界からはうかがい知ることのできなかつた中国の人々の躍動的な生命力のごとさはシャッポを脱ぐばかりである。

イタリアのスローフードの発想も魅力的だし、タンゴの世界も訪ねてみたいし、蓮実重彦氏の真似をするわけでもないが、映画も存分に観てみたい。

家の近くには野菜畑があつて、これもなかなか捨て去ることができず、

四季折々の野菜の世話もしたりで、「それから」の後の世界もなかなか楽しい。

余すところを数えることなく、我を忘れて句点の後の世界を楽しむことが一番のようである。やらねばならぬことは山ほどある。

第二の人生などという言葉がある。

第一に続く第二の人生ということであろうが、価値の高低の差を感じさせる傾きがある。それから後に展開される世界こそ第一の世界であり、百花繚乱たる花園は人それぞれの心の中にあるはずである。

（しのはらよしひこ／高知大学名譽教授）



地ねずみのEメールと シニフィアン

内川 和

二〇〇〇年十一月に内川和がキューバの旧市街で発表した（ハバナ・「WASH IRTEN」）立体作品「地ねずみのEメール」について、制作者自身による考察――。

以下で、S・ド・シェイザーを引用して、語られる単純な言語こそが現実であるとする立場と、構造の支配関係ではなく、二項間の双方関係を問うといった言語アプローチのモチーフを視野に入れ、〈立体〉の作品論を試してみます。

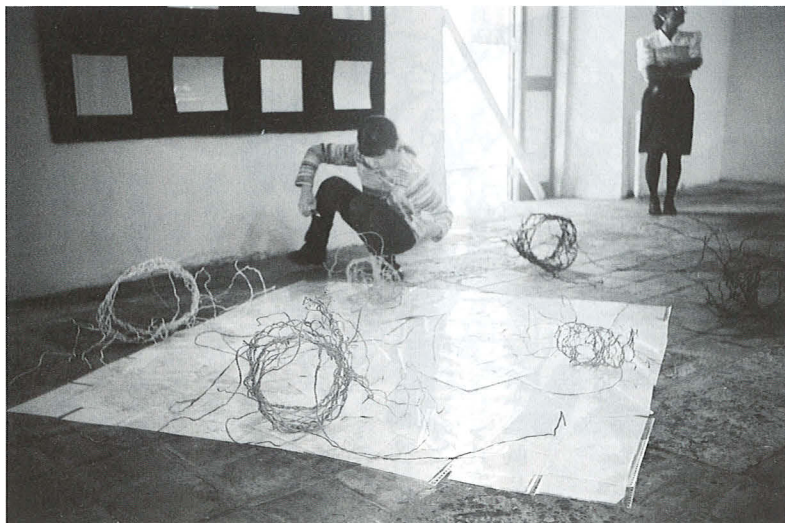
S・ド・シェイザーは、治療のセッションの場にあつて、クライアアントや治療者が発することばの背後や深部に、何か重大な本質が隠されているはずだと、いぶかる従来の言語的探求の方法は、もはや意味をなさないと言います。また、発話されることば、ことばそのもののうえにこそ注意を喚起すべきであり、ことばは、ことばそのもののうちに、意味の媒体が宿っているわけではなく、話し手と聞き手のことばのやりとりの双方関係にこそ、媒体が宿ることとなるのだと言います。

話し手がことばを発するとき、そこにはどのような話され方を見いだ

すのか、というこのことは、ことばそのもののなかに、多様なプレーの違いをひき起こすこととなり、ひき起こされた違いのひとつが、また新たな違いをひき起こすこととなります。そして、次もその次も、次々に新たな違いをひき起こし続けることによって、話し手（聞き手）にあつては、発話状況の変化といった影響にさらされざるをえなくなると言います。

またシェイザーは、独特の聖書解釈を規範とするグノーシス派の例を引き合いに出し、発話されることばのもつ性質を説明しています。すなわちことばは、ひとつのことばでもつては、何かを指し示すことはできないのだと。

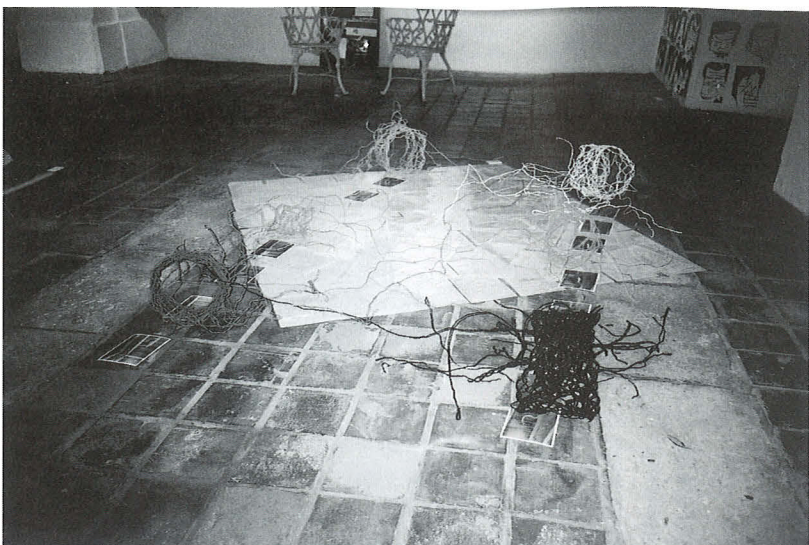
ことばは、どのようなことばもひとつの決まった意味というものを、そのうちに所有することはかなわないのであつて、どうにでもなるのが、ことばのも



制作中の筆者（ギャラリー「ガレリア・ロス・オフィシオス」）

た意味において、その事物性を裏切り得るモノたりえるのだと。

また、精神分析のセッションで扱われるモチーフのひとつに、無意識があります。この無意識と呼ばれる意識も、意識のうえにあらわれる他のモチーフのひとつに過ぎないとシェイザーは言います。



作品名 「地ねずみのEメール」

意識とか無意識とかは、ここではひとつの意識そのもののイデオロギーのうえでの違いに過ぎないと言います。たとえば、話し手と聞き手がことばを交わすときに、話し手が話すことばが、話し手の個人的なこ

ころの動きの影響をことばに反映させていると考えるべきではないでしょう。ことばで話し手と聞き手のあいだに架けられる相互の携わりあいには、映され相互作用するシニフィアンに、考えを及ぼさなければならぬと言います。つまり、話されることばひとつに対して複数に対応するシニフィアンが考えられなければならないのです。

記号学にあつては、記号の最小がひとつに有るのですから、ひとつのことばは、そのことばの記号が属する参照可能なことばの羅列のなかから、ひとつを選びとることができると考えられています。しかし、シニフィアンは常に別の複数のそれとしてあるのであつて、シニフィアンは常に別の複数のシニフィアンに対応しています。

シニフィアンは複数のシニフィアンであることを必要とし、複数のシニフィアンは次のシニフィアンを複数必要とするように、互いに影響を及ぼしていきます。

話し手と聞き手とのあいだに、相互に影響を及ぼすシニフィアンは、そのことで話し手と聞き手のことばに文脈の変化をもたらすこととなります。このことによつても、シニフィアンは話し手と聞き手の側の問題の解決に影響を与える要因たりえるのです。

↓参照

「解決志向の言語学」S・ド・シェイザー（長谷川啓三訳）
「無為の共同体」J・L・ナンシー（西谷修、安原伸一郎訳）
（うちかわかず／アーティスト・（占術家



ゆとりある住生活の実現



山下 隆

■ゆとりある住生活

今日、経済水準の向上、自由時間の増大、情報化・高齢化の進展、住民のニーズ・価値観の高度化・多様化といった社会経済トレンドの変化から豊かさを実感できる住生活を営むことが、強く求められています。

これは、新たな住生活、住宅施策の目標として「ゆとりある住生活」の実現がキーワードとなっていると考えられます。

それでは、何にゆとりを感じるのかということになると、個人の価値観や世代、地域特性等によって異なりますが「ゆとりある住生活」とは、

物質的充足だけでなく精神的な満足に伴う住生活、個人のニーズ・価値観に的確に対応しうる住生活、個人のニーズ・価値観そのものが更新・高度化しうる住生活であるとされます。

これでは、生活像・具体的イメージが明確になってきませんが、高知県の実情、直面している課題に照らした、実際の活動を通して明らかにする必要があります。

■高知県ゆとりある住生活推進協議会

住生活の意識の向上とゆとりある住生活を実現するためには、住まい

に関わりを持つ者が一致協力して、住まいに関する国民の改善意欲を高める活動を展開する必要があります。高知県においては、県民の住まいに対する関心を高めるための諸活動を実施することにより、生活の豊かさを実感できるゆとりある住まいづくりの推進に寄与することを目的として、平成三年九月に高知県ゆとりある住生活推進協議会が設立されました。

本県では「豊かで活力ある県土づくり」の実現のため各種の事業が進められておりますが、中でも生活に密接にかかわる住宅・住環境の整備や街づくりは必要不可欠といえます。とりわけ、本県の住宅基本政策では、高齢化社会の進展への対応と地域の活性化を図ることを積極的に推進していかなければならないと考えられています。

そして、住まいに関わりを持つ住宅関係の業界団体をはじめ消費者団体、報道機関、行政機関などの会員よって構成され、意識の高揚と生活の豊かさを実感できる、ゆとりある住まいづくりの推進のため様々なイベント活動などを行っています。

■ゆとり 見つけた！コンクール

でかつ新しい生活提案などを含んだゆとりある住まいの作品のコンクールを行ってきました。

平成十一年からは、従来のコンクールと視点を異にした、応募者参加の公開審査による「ゆとり 見つけた！コンクール」を行っています。

このコンクールでは、「ゆとり」のある住まい・まちとは？と尋ねられたとき、あなたならどのように答

えられるでしょうか？というように、住まいづくり・まちづくりにおける「ゆとり」のとらえ方について、様々な年齢・立場の人に問いかけて、「私、私たちの思う『ゆとり』について、いろいろな視点で考えてもらい、公開審査の場で、審査員の皆さんとのやりとりを通して、一緒に学んでみようというものです。

公開審査の場では、応募作品に込められた作者ならではの「ゆとり」のとらえ方に対し、審査員一人ひと

りの「ゆとり」に対する考え方の「ものさし」をあてて、時には、審査会場にいる作者に意図を確認したり、意見のやりとりをしながら、検討・評価していく臨場感あふれるライブ感覚の学習の場です。

子供からお年寄りまで、素人でも専門家でも誰でも、幅広い階層の人たちが参加して行う公開審査といえます。

十一年は、「ゆとり」ある住まいの・まちづくりの発見、提案として〜

十二年は、「あなたのステキな暮らし方、教えてください」

三回目となった十三年は、「ゆとりのトイレ」あなたのゆとりのトイレ、教えてください」でした。

これは、住まい・まちには、必ずあるトイレを通じて「ゆとり」のとらえ方について様々な年齢や立場の人に、色々な視点で考えてもらおうとするものです。

A部門 見つけた！「ゆとり」を感じさせてくれたトイレ

B部門 考えた！…こ

このトイレをこう変えたい（リフォーム）というアイデア

この二部門を、高知市鷹匠庁舎で、去る十月二十一日に公開審査を行い、併せてトークショー「トイレうんちく話」を行いました。

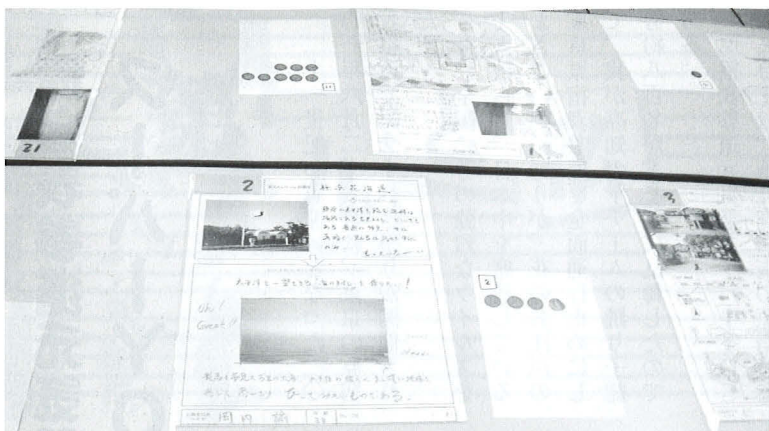
当日の公開審査は、審査員が前もって受け取っている応募作品のコピーの中から、それぞれがピックアップした作品をプロジェクトに写しながらテーブルで意見を交わしている、その際、まわりを取り囲む応募者に作品の説明を求める。

これに対して応募者がプレゼンテーションを行う形で進められていきました。

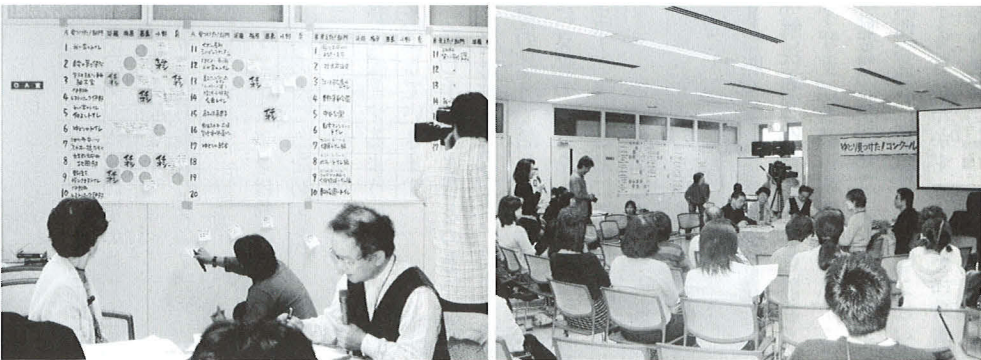
このプロセスによって、各審査員の意見がまとまると審査員長が意見集約をして賞が決定されました。

審査員は、延藤安弘（千葉大教授）生活空間計画学、梅原真（デザイン）腸科・外科院長）、泉真弓（STUDIO TAMAGO・ほにや代表）、西島芳子（高知大教授）住居学、以上の五名で、これらの各審査員が推す審査員特別賞や会場の参加者全員が投票する会場一推し賞等、様々な賞が贈られました。

（やましたたかし／高知県ゆとりある住生活推進協議会事務局）



第六小学校の五年生の子供たちも参加した特別賞のB部門「高知市立第六小学校三階のトイレ」



審査員と参加者が意見を交わし盛り上がった公開審査

原宿表参道元氣祭

スーパードヨソアキ

岡崎誠也

二十一世紀の幕開けとなった二〇〇一年八月二十六日に、東京の原宿表参道で記念すべき祭りが開催された。

今、全国にその強烈なウイリスをまき散らし、日本中を席卷しているよさこい鳴子踊りが、花のお江戸の東京原宿表参道を全面通行止めにして、我が高知の十チームの踊り子総勢約八百名が、まさに乱舞したのである。

原宿表参道元氣祭スーパードヨソアキは、地元商店街の原宿表参道樞会の全面的な協力を得て、さらに明治神宮の強力なバックアップもいただき、横綱の土俵入りが奉納される本殿前で、初めてよさこい鳴子踊りの奉納を行うこともできた。大変名誉なことであり、奉納踊りを踊った「京町・新京橋えびすしぼてん連」の踊り子達も大変感激していた。今回の祭りには、高知市から、えびすしぼてん連をはじめ、本丁筋、

十人十彩、帯屋町筋、Team Get、MEDIA CROSS、アトウェイブ、ドロワーズ、ほにや、山田太鼓の選りすぐり十チームが勢ぞろいした。いずれも金賞や銀賞等を受賞している実力派のチームであり、また原宿での怪しいストリートパフォーマンズがよく似合う曲者チームも参加している。

原宿は若者の町であるとともに、最近では海外のブランド店が自社ビルを建て、本物志向で商売をしている、まさに情報発信の最先端の場所であり、この表参道のストリートで踊ることは、日本の文化を世界にライブ中継することと同じ意味を持つのである。実際、ルイ・ヴィトンやグッチなどの店舗にいた外国人の社員・役員達は日本にこんなパワーのある祭りがあるのかとびっくりし、主催者側にこの祭りの内容を詳しく聞いていた。

よさこいは、まさに伝統と文化に

息づく、日本のパワーあふれる祭りであり、踊っている人だけでなく、見ている人々も楽しく元気にしてくれる魅力を持っている。もちろん、目の肥えた観客にそう感じてもらうためには、厳選したチームを派遣することが大事であるが、原宿で若者やお年寄り達が肩を並べて楽しそうに踊りを見ている風景は、今まで見ることができなかった原宿の新しい顔を見た思いであった。



このスーパードヨソアキは、北海道のヨソアキソランを超える祭りに発展する可能性を秘めており、第一回目の開催に関わることで、本当に感謝している。高知のよさこいの本質は「祭り」であり、イベント色の強いヨソアキソランとの質的な違いは、ここにある。

花の東京の江戸っ子達は昔から祭りが大好きであり、高知のよさこいが、江戸っ子達によって地元の文化と融合し、新たなよさこいに発展していく土壌は十分あると思うし、よさこいにはそれだけの柔軟性もたっぷりと備わっている。

よさこいの文化性は、世界的にも受け入れられるだけのパワーと楽しさを持ち合わせており、本来チャンスさえあれば、世界各地にも飛躍できるだけの多様な能力と柔軟性を持ち合わせていると感ずる。

重苦しいテロ事件によって閉塞感の漂うニューヨークの市民を元気づけるため、ニューヨークのウォール街によさこい祭りを持つていくことができれば、かつて大リーグで優勝したニューヨークメッツが凱旋したときのような大歓声待ち構えていると確信するのは私だけだろうか。(おかげささいや／高知市観光課長)

第九と私

川田弘人

NHKホールは舞台から見ると意外と狭く感じた。これが私の第九初体験の感想だ。

当時、音大生であった私は幸運なことに、初めてのベートーヴェンの第九交響曲をオットマール・スウィートナー指揮、NHK交響楽団という恵まれた環境で歌うことができた。この経験は、私が待ち望んでいた瞬間だった。経験することが何もかも初めてで、その瞬間ごとの思い出が今でも脳裏に蘇る。高さはあるけれど、床面積がさほどないこのホールは、天井に煌めくライトが星空のように見えた。年末にテレビ放送されるこの第九は、第四楽章中盤「あの星空の上に愛すべき父は住んでいるに違いない」と歌うところ、点々とする天井ライトが映し出される。放送の際には、注意深く見ていただきたい。

高知では、数年前まで高知県合唱連盟が第九の演奏を手掛けていた。私も当時、何度かお手伝いに行くことができたが、以来、第九からはしばらく遠ざかっていた。

昨年、東京在住の高校・大学と私の先輩であった窪川町出身の指揮者、白石卓也氏より松山の三越百貨店における第九のテノールソロの出演依頼をうけた。あまりに突然

に第九が目の前に現れた。運命に扉を叩かれるがごとく、久しぶりに楽譜を開き、勉強をしておいた。すると、過去の自分には見つけられなかった新たな感動を覚え、新鮮な気分が演奏に臨むことができた。また、ベートーヴェンのこの輝きに導かれるように演奏した松山の合唱団や三越のスタッフの方たちの一生懸命さは、再び私とこの楽曲を結びつけた。

ちょうど一年前、私は弟子たちとともに音楽研究会を立ち上げた。若輩の私には、まだまだ早すぎる結成ではあったが、後押しをしてくれる方たちによって、心の通う組織ができてきた。今年になってから、第九の演奏をピアノ伴奏でもいいからなんとか高知で定期的に行いたいと思ひ、川田音楽研究会の主催で行うことになった。幸いなことに大学の先輩であった山本幸雄君が高知に帰ってきて、彼の全面的な協力が得られたことも始めるよい契機になった。

さらに高知日産プリンス販売の共催、イオン高知ショッピングセンターのご協力をいただき、この九月から練習を始めた。本番は十二月二十二日、クリスマススムードの中で第九は、百名の合唱団によって再びこの高知に、私たちに何かを伝えるために蘇る。残念ながらこの文章が皆さまの目



真剣な表情の参加者
(指揮をしているのが筆者)

この演奏会は、決してホールで行うクラシックコンサートではなく、「元氣な大人へ第一歩」をコンセプトに、練習から本番までの一連の流れをイベントとして行う。今回は参加できなかった方にも、是非、次回からは私たちとともに「元氣な大人に第一歩」を踏み出していただけだと思おう。そうやって年々、新たな仲間たちとともにベートーヴェンのメッセージを感じていくことが私の夢である。

(かわだひろひと／川田音楽研究会)



散歩の途中で

おなじみの像に右手を入れた龍馬像だが、足元に目をやると鎖が……。上町の中華料理店の店先の電信柱に、南京錠付きでしっかりとつながれている。まさか夜中にひとりで歩き出すはずもないが、本人の意に反して連れ出してしまう不心得者がいるのだろうか。龍馬のにらみも利かない世の中になったということか。

風俗

スカトロジョー・土佐

大根までにはいかにしてもそこそここの金時人参クラスの太さと長さを誇示しており、色も形も申し分がない。古来些事に拘泥する小人物を評して尻の穴の狭い奴だと言いが、ここに転がっているのはその対極にある代物であった。これほどまでに長大雄渾な作品を送り出せるの

室戸市内の国道沿いの道の駅、ここを通る時の習慣で先日トイレ休憩に車を止めた。男性用トイレの片側に並んでいる数か所の個室はどれも扉が開いていたが、その中の一つの前で思わず足が止まった。便器の水の中に見事としか言いようのない雄大な逸品がごろんと横たわっている。

はよほどの大人物でなければならぬ。使用後に水を流すという世俗の約束事など平然と無視しているところがそもそも証拠ではないか。だが、この作品に見合うほどの大人物が現在の土佐に居るのだろうか。県知事以下県内各界のお歴を思い浮かべてみたが誰もが到底及びもつかない。これだけの度量に相応しい人物ともなればもはや坂本龍馬か吉田茂くらいしか居ないではないか。それにしても、後始末をした善の紙がどこにも見当たらないのはなんだろうか。そこではたとえ気が付いた。龍馬も吉田も今や幽明境を異にする存在だ。彼等がこの世に出現する時には下半身が無い。だから後始末も不要だった、と正月早々話に落ちがついた所で、お後がよろしいよう。でもあれば本当に不思議だったなあ。(南北)

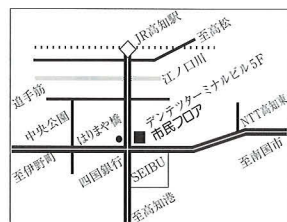
第27回市民フロア企画展

新世紀の風V-M1展

高知大学大学院教育学研究科美術専修一年生3人によるグループ展。瀧石公子さん(西洋画)、平原史子さん(金工)、渡辺雅子さん(日本画)の作品約20点を展示します。



2002/2/14(木)~2/26(火)
10:00AM~6:00PM 会期中無休
はりまや橋デンテツターミナルビル5階



今号の表紙

「面」(象形文字) 和田大康
書は線の芸術といわれています。また最近には誰にでもわかる書、読める書をスローガンにしている社中もあります。それらのことを考えて題材を「面」に決定。構想を練ること数か月、あとは一気に筆を執り書いたものがこの作です。少数書は線を切ったら血の吹き出るような書、独創性のある書が大切とよくいわれます。借り物でない、自画像が出ていければ良い。(わたたいこう)



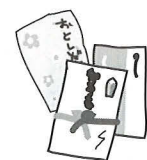
高知を撮る S34年元旦の高知城(昭和34年 高知市) 山本明良

第17回写真コンテスト入賞作品

夢枕獺の小説「陰陽道」、岡野玲子によるそのマンガ化、さらに、滝田洋二郎監督による映画化と、いまや、陰陽道は大ブーム。この陰陽道の視点から、正月風俗のいくつかを読み解いてみよう。まず、「明けまして、おめでとございませう」という挨拶。この挨拶は、相手の人間に対して言うのではなくて、新たな年神を讃える言葉として交わされるものである。わが国古来の伝承による年神は、五穀を司る神と考えられていた。一方、中国から渡来した陰陽道では、人間の世界に來訪する神霊・歳徳神を年神とした。これら二つの年神が合体し、さらに、先祖代々の御霊、つまり、〈祖霊〉が加えられた。旧年の物忌みが明けて、新しい靈魂を迎えるにあたって、その靈魂に対して、祝福の言葉を捧げるのである。

おんみょうどう 陰陽道

風俗歳時記



中国では、神の到来する節の日に、神に供える供物を節供といいた。やがて、中国の節が、日本の折り目の観念と結びついて、特定の年中行事を意味するようになったのが、〈桃の節句〉や〈端午の節句〉などである。人々は、神に供御を供えた代わりに、年神から魂を与えられ、新しい年に、生命を新しくしていった。〈魂〉は〈玉〉と同根であり、鏡餅は年魂を象徴している。年神から家長に与えられた年魂が、親から子へ、主人から使用人へと与えられるように習慣が変わっていき、現在では、金品として正月に贈られるものを〈お年玉〉というようになった。(永田久「年中行事を科学する」、戸井田道三「日本人の神さま」)



かるぽーと開館記念プログラムラインナップ

きっと一度は足を運んでいただけるよう、さまざまなジャンルから、開館記念にふさわしいプログラムを選びすぐりました。

開催日	ジャンル	プログラム	場所	主催
自主事業				
4月7日(日)	音楽	ロバの音楽座「トナーダーナの音楽会」	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
4月7日(日)	座談会	まんが館開館記念座談会 横山隆一と世界のまんが事情(仮題)	● 小ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
4月7日(日)~4月21日(日)	展示	第54回高知市展	● 市民ギャラリー	高知市展代表委員会・高知市教育委員会・(財)高知市文化振興事業団
4月7日(日)~6月2日(日)	展示	追悼 横山隆一展(仮題)	● まんが館	高知市
4月9日(火)	音楽	ドレスデン国立歌劇場管弦楽団	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
4月10日(水)	音楽	飛天〜能楽囃子演奏会	● 小ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
4月13日(土)・14日(日)	演劇	市民ミュージカル ミュージカルレジェンド「RYOMAの夢」	● 大ホール	高知市文化祭執行委員会・高知市教育委員会・(財)高知市文化振興事業団
4月20日(土)	イベント	体験教室	● 中央公民館	高知市教育委員会・(財)高知市文化振興事業団
4月21日(日)	イベント	公民館結婚式〜二人でつくるメモリアル・ウェディング〜	● ガレリア	高知市教育委員会・(財)高知市文化振興事業団
4月21日(日)	バレエ	モーリス・ベジャールバレエ団「少年王」	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
4月24日(水)	舞踊	十代目坂東三津五郎歌舞伎舞踊公演	● 大ホール	高知市文化祭執行委員会・高知市教育委員会・(財)高知市文化振興事業団
4月27日(土)	音楽	高知ポップス・オーケストラコンサート	● 大ホール	高知ポップス・オーケストラ・(財)高知市文化振興事業団
4月28日(日)	朗読	詩のボクシング高知大会	● 小ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
5月3日(金)~5月26日(日)	展示	華やぐバリの芸術家たち ~印象派、エコール・ド・パリから現代までの足跡をたどる~	● 市民ギャラリー	高知市・(財)高知市文化振興事業団
5月5日(日)	人形劇	かわせみ座「バーレルセルの森にて」	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
5月8日(水)	ミュージカルパフォーマンス	乱★打 NANTA(ナンタ)	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
5月17日(金)・18日(土)	映画	アニメーションのあけぼの おとぎプロ作品上映会	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
5月22日(水)	音楽	ウィーン少年合唱団	● 大ホール	RKC高知放送・(財)高知市文化振興事業団
6月7日(金)	音楽	南こうせつコンサート	● 大ホール	デューク・(財)高知市文化振興事業団
6月8日(土)~7月7日(日)	展示	撮りたて恐竜展	● 市民ギャラリー	KUTVテレビ高知・(財)高知市文化振興事業団
6月13日(木)	音楽	松本美和子 アンナ・クオ デュオコンサート	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
6月16日(日)	演劇	前進座「かんがえるカエルくん」	● 小ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
6月29日(土)	舞踏	山海塾「かがみの隠喩の彼方へーかげみ」	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
7月5日(金)~7日(日)	人形劇	モネゴイル劇団「すなのなかのなみ」	● 小ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
7月14日(日)	イベント	公民館利用サークル発表会	● 大ホール	高知市教育委員会・(財)高知市文化振興事業団
7月16日(火)	演劇	Private Lives 私生活	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
7月21日(日)	イリュージョン	プリンセス天功ワールドツアー2002華麗なる大魔術高知公演	● 大ホール	KSS高知さんさんテレビ・(財)高知市文化振興事業団
8月13日(火)~9月1日(日)	展示	漫画集団創立70周年記念イベント「まんがのシャワー」(仮題)	● 市民ギャラリー	漫画集団・高知市・(財)高知市文化振興事業団
10月31日(木)・11月1日(金)	オペラ	ハンガリー国立歌劇場「カルメン」	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
11月27日(水)	音楽	梯剛之ピアノリサイタル	● 大ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
12月15日(日)	音楽	山村誠一とドリームオーケストラ	● 小ホール	高知市・(財)高知市文化振興事業団
市民共催事業				
4月26日(金)~28日(日)	展示	春のいけばな展	● 市民ギャラリー	(社)高知県華道協和会・(財)高知市文化振興事業団
4月28日(日)	音楽	第11回高知県市民バンド連合演奏会	● 大ホール	高知県市民バンド連合会・(財)高知市文化振興事業団
4月29日(月)	音楽	「ヨハネ受難曲」演奏会	● 大ホール	高知パハカンタータフェライン・(財)高知市文化振興事業団
5月3日(金)	音楽	緑の風のコンサートスペシャル	● 大ホール	高知コンサートグループ・(財)高知市文化振興事業団
5月4日(土)	音楽	第43回高知県合唱祭	● 大ホール	高知県合唱連盟・(財)高知市文化振興事業団
5月6日(月)	音楽	高知文響楽団第128回定期演奏会	● 大ホール	高知文響楽団・(財)高知市文化振興事業団
5月11日(土)	舞踊	第47回白鷺おどり	● 大ホール	高知県日本舞踊協会・(財)高知市文化振興事業団
5月11日(土)・12日(日)	演劇	演劇合同公演「ハムレット」	● 小ホール	演劇合同公演実行委員会・(財)高知市文化振興事業団
5月12日(日)	音楽/舞踊	第58回詩吟剣舞舞春大会・第44回優勝旗争奪競演決勝大会	● 大ホール	高知県詩吟剣舞舞連盟・(財)高知市文化振興事業団
5月19日(日)	音楽	三曲演奏会	● 大ホール	高知県三曲協会・(財)高知市文化振興事業団
5月25日(土)	バレエ	「かるぽーと」開館記念バレエ・フェスティバル	● 大ホール	高知県バレエ協会・(財)高知市文化振興事業団
5月26日(日)	音楽	民謡 民舞の祭典	● 大ホール	高知県民謡協会・(財)高知市文化振興事業団
5月29日(水)~6月2日(日)	展示	第1回高知市民ギャラリーの会会員展	● 市民ギャラリー	高知市民ギャラリーの会・(財)高知市文化振興事業団

◎詳しくは文化振興事業団企画事業課(088-883-5071)へお問い合わせください。